

ご出席者の皆様

本日は年末お忙しい中、署名式の間を用意いただきありがとうございます。

本件は、日本消防協会がペルーのために用意した日本の中古消防車及び救急車 10 台を、草の根・人間の安全保障無償資金協力によりその輸送費や整備費等を負担して貴消防団に提供するものです。今回の日本の支援に関しては、あまり表だってはいませんがナンシー大統領夫人のご尽力がありました。ベトナム APEC にご出席の後、帰路日本に立ち寄られ、総務省消防庁や日本消防協会もご訪問、意見交換等をされました。ここに大統領夫人に敬意と感謝を表明致します。

消防車及び救急車計 10 台は、今年末に出港し来年 1 月末にカヤオ港に到着予定となっております。また、来年には日本から供与車両の費用方法及び維持管理にかかる技術指導のため、消防史員らが訪秘します。これにより、車両供与後速やかに、有効にこれを活用することができます。是非この機会に、日ペルー両国の消防の仕組みや取組について意見交換していただければと思います。私からも、少し日本の紹介をさせていただきます。

嘗ての日本では、ほとんどの建物が木造建築でした。江戸（今の東京）は 18 世紀の初頭には 100 万人の人が住む世界最大の都市でした。その冬は乾燥しており、強い風も吹きます。密集した市街地のすべてを焼き尽くすほどの大火災に何度も見舞われています。そんな時代に活躍したのが火消しです。十分な装備はなかったので破壊消防が中心でした。当時人気絶頂であり今も盛んな歌舞伎という日本独特の舞台芸術がありますが、その演目に火消しがたびたび登場します。庶民の人気者なのです。

現在の日本では、消防組織は、火災を消すだけではなく火災予防、人命救助、救急搬送なども行います。都市部を中心に 16 万人の常勤の消防職員が働いていますが、ペルーと同様に ボランティアとしての消防団員が 85 万人いて、両者が協力して活躍しています。

ペルーと日本。火災の発生状況や消防の体制は異なりますが、いずれの国でも火災と闘う消防士は皆のヒーローです。貴国では消防団員が全てボランティアで構成されており、日々の仕事を持ちながらも交代制で 24 時間体制を確保していることや、有事には危険を顧みず尽力されていることに敬意を表します。

これまで日本の災害救急現場の第一線を担ってきた消防車・救急車が団員の皆様の下、第二の活躍の場を与えられることは大変喜ばしいことです。

本車両が到着し、貴国の防災対策の一助となることを期待すると共に、本プロジェクトが日本とペルーの友好関係を更に強化することを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。